



いの町長 始 塩田

あけましておめでとうございます。皆さまには、お健やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

近年、景気が回復傾向にある大都市に比べ、地方ではまだまだ閉塞感を拭い去ることができない状況のもと、皆さまには、昨年も本町の各種施策・事業に一方ならぬご理解・協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

町としましては、昨年は「いの町行政改革大綱」及び「いの町行政集中改革プラン」を策定し、さらなる事務の効率化、職員定数・給与及び財政の適正化に努め、今年も引き続き取り組んでまいります。

さて、昨年を振り返りますと、本町では中山間地域の活性化、住民の皆さまの生活基盤である道路関連事業、環境保全対策、地域安全対策及び旧町村間での格差解消に重点をおいた一年でありました。

環境保全対策については、「仁淀川山の手入れで元気モリモリ事業」の拡大をはじめ、水源かん養機能の強化や水資源の保全をさらに図る一方、高知県による「環境先進企業との協働の森づくり事業」として、本川地区では三

井物産株式会社と、吾北地区では太陽石油株式会社とパートナーズ協定を締結いたしました。

地域安全対策については、伊野地区の防災行政無線整備事業の着手、本川地区の嶺北消防から仁淀消防への所管変更などに取り組んだほか、株式会社サニーマートとの「災害時における物資の供給に関する協定」や伊野地区建設業協会・吾北地区建設協会・本川地区建設複合協会との「災害時の応急対策活動協力に関する協定」の締結などを行いました。

また、長年の懸案であった宇治川流域の治水対策も本年3月までには新宇治川放水路が完成し、現在工事を行っている天神ヶ谷川も概成することが見込まれており、大きく前進いたしました。

地域格差の解消については、吾北地区への歯科医院誘致、吾北地区学校給食センター建設工事の着工などにも取り組みました。そのほか、いの町歌の完成、伊野南墓地公園の使用者の募集受付などもありました。

今年度は、合併後三年を迎えます。「ひと」と「ひと」、「まち」と「まち」との絆をより一層深め、これからも「豊かな自然と心に出会えるまち」を皆さまとともに築いていきたいと思っております。

最後になりましたが、皆さまのますますのご健康とご多幸を祈念しまして、私からの新年のあいさつとさせていただきます。



いの町議会議長 豊 土居

新年おめでとうございます。皆さまには希望ある新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

新しいまちづくりも3年目に入り、昨年の町にあつては、本川地区を担当する消防組織が仁淀消防に代わり、高知西バイパス工事に伴う墓地公園使用者の募集も開始されたほか、いの町観光協会も設立され、各地区で受け継がれてきた伝統ある行事やイベントを通じ、地域間交流が促進されました。

本年には、吾北地区に念願の学校給食センターが稼働を始め、重要課題である仁淀病院の今後のあり方については、コンサルタントの調査結果をもとに再建、整備についての具体案があげられることでしょう。

また、新宇治川放水路や天王・池ノ内地区と伊野地区を結ぶ農免道路も竣工され、春には供用が開始されます。そして、高知西バイパス工事についても国道から仁淀病院前を通り南への道路拡張工事等の周辺整備とともに、早期完成と供用を目指して順調に進んでおります。

中でも、今、真剣に取り組まなければならぬものに、山林資源の保全があります。仁淀川上流や吉野川源流、さらには西条へと北に広がる林野です。放置されていた人工林を再生する「仁淀川山の手入れで元気モリモリ事業」、降雨のたびに災害の発生する山地を守る「治山・治水工事」、国土を保全する「緑のダム事業」を、三大重点施策として取り組むことが重要です。山間部にいきいきとした生活実感を取り戻すことができなければ、「豊かな自然と心に出会えるまち・いの」の建設は、始まらないといってもよいでしょう。

高知県で「いの一番に合併」した効果が目に見えて実感できるように、私も議会は気持ち新たに、民意を反映した地域の特性を活かせる新たな産業構造を確立して、安定した生活が約束されるまちづくりに向けて、住民とともに邁進してまいります。

四月には県議会議員の選挙があります。高知県の中心に位置し、「明るく元気なまちづくり」を目指すわが町を応援してください。強く希望します。

結びに、将来への夢と希望の実現に向けて、確かな歩みを進める力強い一年になることを念じ、加えて皆さま方のますますのご健康とご多幸を心から祈念いたします。